（別紙様式4）

令和5年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
履正社国際医療スポーツ専門学校	平成10年4月1日	池尾　忠思	〒　532－0024 （住所）　大阪市淀川区十三本町3－4－21 （電話）　06－6305－6592
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人履正社	大正11年4月1日	釜谷　等	〒　532－0024 （住所）　大阪市淀川区十三本町3－4－21 （電話）　06－6305－6592

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ学科 （アスレティックトレーナーコース）	平成 7(1995)年度	－	平成29(2017)年度

学科の目的	
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	本学科は、スポーツ・健康産業において必要とされるアスレティックトレーナー、パーソナルトレーナー、フィットネスインストラクター、そして,バスケットボール・水泳etcの指導者を養成している。取得可能な資格は、日本スポーツ協会認定アスレティックトレーナー、健康運動実践指導者、バスケットボール、水泳etcのコーチ資格です。

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,860 単位時間 単位	1,350 単位時間 単位	90 単位時間 単位	240 単位時間 単位	0 単位時間 単位	180 単位時間 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
280 人	46 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 38	人
■就職希望者数 (D)	: 31	人
■就職者数 (E)	: 30	人
■地元就職者数 (F)	15	人
■就職率 (E/D)	97	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	50	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	79	%
■進学者数	7	人

■その他

（令和　　4 年度卒業者に関する令和４年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和4年度卒業生）

主な就職先、業界等については、チーム（プロ・アマ）・スポーツ関連団体・企業、施設・福祉介護施設や民間企業等多岐に渡る。

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://www.riseisha.ac.jp/course/at/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数		1,860 単位時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	330 単位時間
	うち企業等と連携した演習の授業時数	240 単位時間
	うち必修授業時数	330 単位時間
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	150 単位時間
	（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数		単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位
	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位
	うち必修授業時数	単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	5 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	6 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	2 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	2 人
計		15 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	9 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本学科の授業内容及びカリキュラム策定の基本方針において、本校に入学してくる半数以上の生徒は、高校で体育系の部活動を経験しており、その大半が部活動での負傷が原因で継続を断念したり、周囲で同様の事例を見聞したことのきっかけが動機になり、入学してくる。我が国の高校部活やクラブチームでは、国家免許を所有した専門的な治療家、トレーナーが少なく、資格を有さない者が未熟な処置、トレーニングで選手に影響を与える事は少なくない。現場からも専門家派遣の要請が多く、そのような社会の需要に応えるべく、企業等と連携し、特色的な授業内容とカリキュラムを策定する。具体的には、生徒が目指す高校部活動へトレーナーとして派遣している接骨院、 スポーツ整形クリニックでの、臨地研修や体験研修の実施、就職斡旋など、本人達が目指すべき姿を実際に観察させる。また、当該分野にて活躍活動をしている講師や実習先指導者、卒業生の勤務先院長などと、普段から連絡を密にし、情報の交換を行う。将来に向けて、スポーツ振興が活発になり、スポーツ外傷によるケガも増加すると見込んでいる。 スポーツ種目は年々、また月ごとに変化しているので、その患者にうまく対応できる、同じ種目経験者の派遣要請や、就職紹介などにも応え、今後増加する社会の変化や要請を教育に落とし込んでいく。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校組織図（文化教養専門課程）校務分掌の中に、独立した外部委員会として位置付けた。
カリキュラム編成大綱化が導入され以降、建学の理念の基づく学校の特色や方針を授業に反映させているが、教育課程編成委員会を独立した組織と定義し、今後は企業（スポーツ関連機関など）の声や意見を取り入れ、スポーツ産業の変革に適応できるよう、カリキュラムを編成していきたい。具体的にはスポーツ学科担当教員による週例会議でカリキュラム編成会議を実施し学科長会議を経て教育課程編成会議にて議論を行う。最終は校長・教頭会議で決裁される

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
西脇　雅人	大阪工業大学　一般社団法人日本体力医学会	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	②
梅原　哲朗	株式会社　Toughrit	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	③
和田　竜三郎	株式会社　西宮ストークス	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	③
池尾　忠思	履正社国際医療スポーツ専門学校　校長	内部委員	－
大江　信一郎	履正社国際医療スポーツ専門学校　教頭	内部委員	－
山口 宗明	履正社国際医療スポーツ専門学校　スポーツGM	内部委員	－
照屋 博康	履正社国際医療スポーツ専門学校　スポーツGM	内部委員	－
浅村　典正	履正社国際医療スポーツ専門学校　スポーツGM	内部委員	－
竹中　宏	履正社国際医療スポーツ専門学校　事務長	内部委員	－

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回（5月、9月）

（開催日時（実績））
第1回　令和2年9月29日　18：00～
第2回　令和2年12月10日　18：00～（5月12日実施予定分）コロナにより延期した分
第1回　令和3年5月11日（コロナ対策の為9月28日に延期）
第1回　令和4年5月17日　18:00～
第2回　令和4年10月11日　18:00～
第1回　令和5年5月16日　18:00～
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
教育課程編成会議の中で委員の先生方から「仕事に対するイメージが無いまま就職してしまうと、早期に離職するケースが多い為、学生時代からの積極的なインターンシップへの参加は、卒業後に即戦力として働くには非常に重要なことである」という貴重な意見を踏まえて、長期のインターンシップを授業の一環として取り入れることや今よりも更に企業の方々と連携を取りながら実技・実習に関する内容の授業を積極的に行うようにカリキュラムの見直しを図る。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、スポーツ業界において必要とされる知識・技術に加え社会人としての礼儀作法の習得を目指した職業教育の実施を目的としている。スポーツトレーナー・パーソナルトレーナーとかかわりの深いトレーナー業界フィットネス業界、また競技系スポーツチームと連携し実践的な職業教育を行う。卒業後、各現場にて即戦力となる人材を養成するにあたり、授業開始前に担当教員と綿密に打ち合わせを行い、授業内容の決定だけでなく、履修学生の学修状況や性格、得意不得意などの学生情報を共有した後に授業を行っていただくようにしている。授業においては、専門的な知識の習得は勿論のこと、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の養成も行っている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携している企業の方より実際の現場で必要な知識・技術を伝授していただく。また、業界の現状を享受し必要なトレーニングプログラムやコーチングテクニックを実戦形式で身に付くように指導を受ける。学期末には企業の先生方より学習評価を受ける。担当教員と企業より派遣していただいた講師の先生および企業スタッフの方と綿密に打ち合わせを行う。授業実施期間中は、学生の熟達度や授業進捗状況の打ち合わせを行い、学生の熟達状況に応じて臨機応変に授業内容の変更も行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
トレーニング実技Ⅰ	筋肉の機能・関節の構造からトレーニング指導の基本を習得し、ウェイトトレーニングのフォーム・重さ・回数・セット数・テンポなどの変数の違いやシステムによる効果の違いを実践を通して学ぶ	身体運動塾
トレーニング実技Ⅱ	ラダーやミニハードル、バランスボールなどのフィットネス器具を用い、理論を交え使用方法を学び、クライアントにデモンストレーションできる力を養う。また、個々にあったトレーニングプログラムを作成できる力を身につける。	身体運動塾
幼児体育実践	キッドビクスプログラムの中の根幹であるアクティビティ・プレイ＆フィットネスエクササイズについて、自身でプログラムを体感し、子どもたちへのフィットネスエクササイズプログラム作成の基礎を学ぶ	日本こどもフィットネス協会
フィットネスマネジメント論	フィットネス業界の現状を知り、今後の業界発展のために、どのようなマネジメントが必要なのか？をディスカッション方式で学び、就職後の企画運営力を高める	株式会社Toughrit
CFSC	ファンクショナルトレーニングの哲学、理論、実技を習得する	株式会社ティップネス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校が定めている、教員に対する研修に係る諸規定に準じ、業団（日本スポーツ協会や日本水泳連盟など）が開催する講習会、学会、研修会に積極的に参加し、現場の応用技術や臨床知識を修得すると同時に、業界の活動や変化を俊敏に捉え、現場と教育が乖離しないように教育に反映させる。
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等
研修名：　日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専任教員ミーティング　連携企業等：日本スポーツ協会 期間：　令和4年8月22日（月）　対象：本校教員 内容　日本スポーツ協会の認定校として、日本スポーツ協会が主催する教員講習会に参加。アスレティックトレーナーを目指す学生への指導方法を学び、学生指導に活かすことを目的としている。（毎年継続して受講）
②指導力の修得・向上のための研修等
研修名：　PERFORM　BETTER　JAPAN　SUMMIT2022　連携企業等：PERFORM　BETTER　JAPAN 期間：　令和5年9月24～25日　対象：日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー 内容　スポーツ現場で使用できるストレングス＆コンディショニングの知識や実践力を取得し、学生指導時に活用することを目的としている。
（3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等
研修名：　日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専任教員ミーティング　連携企業等：日本スポーツ協会 期間：　令和5年8月21日（月）　対象：本校教員 内容　日本スポーツ協会の認定校として、日本スポーツ協会が主催する教員講習会に参加。アスレティックトレーナーを目指す学生への指導方法を学び、学生指導に活かすことを目的としている。（毎年継続して受講）
研修名：　日本スポーツ整形外科学会2023　連携企業等：日本スポーツ整形外科学会 期間：　令和5年6月29日～7月1日　対象：日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー 内容　教育研修、特別講演などを聴講し、最近の知見を知り、学生指導時にその知識等を活用することを目的としている。
研修名：　第12回日本アスレティックトレーニング学会学術大会　連携企業等：日本アスレティックトレーニング学会 期間：　令和5年年7月8～9日　対象：日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー 内容　教育研修、特別講演などを聴講し、最近の知見を知り、学生指導時にその知識等を活用することを目的としている。
②指導力の修得・向上のための研修等
研修名：　コーチデベロッパー研修会　連携企業等：日本スポーツ協会 期間：　令和5年9月30日、10月1日　12月2～3日　対象：本校教員 内容　日本スポーツ協会免除適応コース認定校として、スポーツ指導者養成におけるファシリテーションの必要性、進め方を実戦形式で学ぶ講習である。本校専任教員が継続的に協会の講習を受講することで、学生の意見を引き出し、学生自身が考えて行動を起こせる学生指導を提供することを目的とする。
研修名：　現場実習指導者説明会　連携企業等：日本スポーツ協会 期間：　令和5年7月24日、8月22日、8月26日　対象：本校教員 内容　現場実習指導者がカリキュラムを理解し、一定水準以上の現場実習のレベルを担保することを目的としている。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
学校関係者としてトレーナー業界、医療関係者の企業様と共に学校関係者評価委員会を設置し当該専門科目における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営改善の参考とする。学校関係者評価は「私立学校専門学校等評価機構　専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した。自己点検・自己評価の結果を基に「専門学校における学校評価ガイドライン」に則り実施することを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
本委員会において、企業から参画された委員の意見は以下の内容であった。
医療とスポーツを融合した教育方針は理解できるが、職業実践教育においては即戦力が期待されているので、今後この部分の強化が期待される。また、職能教育のみならず、人格育成やスポーツ・医療に携わるにふさわしい人材教育も必要であると意見があった。
職業実践教育及び即戦力に対して、学外での実習において、十分な時間の確保及び質の向上に努めている。
人材育成においては、入学直後に新入生一泊研修制度を導入し、人格教育及び社会人たるにふさわしい研修を入学初期段階で実施している。
最後に委員の意見を学校全体に照らしてみると、これまで若年層を主として対象としていたスポーツの概念をシニア世代の予防運動や体操なども含め、高齢者の特徴や疾病事故の予防医学の観点を教育に反映し、今後は改善を進めて参りたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
安村　亮	ラックヘルスケア株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界委員
川上　晃司	スポーツインテリジェンス株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業委員
野柳　俊英	やなぎ整形外科クリニック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界委員
中谷　功	なかたに鍼灸整骨院	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界委員
清行　康邦	公益社団法人　全日本鍼灸学会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	学識有識者
萩原　嘉彦	ハギーコーポレーション	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)　・　広報誌等の刊行物　・　その他(　　))
URL:　https://www.riseisha.ac.jp/school/disclosure/
公表時期:　令和5年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
入学者の多くが、将来スポーツ関係に従事したいと考えており、実習概要や校外研修要項を作成し、情報提供として企業等の学校関係者に随時説明を行っている。
また、就職先や実習先の指導者には、入学者の動機や将来希望する専門分野を説明し、出来る範囲でそのような症例やケースに遭遇できる機会の確保を要請している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校案内
(2)各学科等の教育	学科紹介
(3)教職員	先生紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	体験型学習のススメ
(5)様々な教育活動・教育環境	十三キャンパス
(6)学生の生活支援	学生の一日、就職先・キャリアアップ
(7)学生納付金・修学支援	納付金のご案内
(8)学校の財務	情報公開(財務)
(9)学校評価	情報公開(学校関係者評価)
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)　・　広報誌等の刊行物　・　その他(　　))
URL:　https://www.riseisha.ac.jp/school/disclosure/
公表時期:　令和5年7月31日

授業科目等の概要

	（文化・教養専門課程スポーツ学科）令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネスマナー	社会人が企業で働く上で身に付けている事が望ましいマナーを模擬演習形式で学ぶ	１前	30	2		○		○			○	○
2	○			ホームルーム	個別面談を定期的に実施し、学生個々の生活状況を把握するとともに、実習や就職指導も並行して行う。	１２通	120	-				○		○		
3	○			ホームルーム	進路指導、学級経営を行い。楽しく過ごせる環境を作る。	１２前	120	-				○		○		
4	○			サービス接遇マナー	社会人としての最低限のマナーを身に付け、ﾋﾞｼﾞﾈｽの現場で接遇として表現できるようにする。	１前期	30	2	○			○			○	
5	○			ビジネス実務マナー	社会人常識を身につけると同時に、就職・編入のための面接対策を意識しての授業を実施。	1後期	30	2	○			○			○	
6	○			キャリアデザインⅠ	社会の第一線で活躍している方々の体験談、キャリア形成についての講義、グループワークを通じて、学校生活で学ぶべきことと社会で働く意義や関連性を考え、今後の自らのキャリアを考えるきっかけを作る。	１前	30	2		○		○		○		
7	○			キャリアデザインⅡ	卒業後の展望をある程度明確にし、そのために行わなければならない学生生活を自らデザインする	１後	30	2		○		○		○		
8	○			ゼミ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	２後	60	4		○		○		○	○	
9	○			ビジネスマナーⅠ	ビジネスで用いられるマナーやエチケットなどを模擬演習形式で行う	1前	30	2		○		○			○	○
10	○			ビジネスマナーⅡ	ビジネスで用いられるマナーやエチケットなどを模擬演習形式で行う	1後	30	2		○		○			○	○
11	○			応接マナーⅠ	ビジネスで用いられる対人に対する応接マナーを演習形式で学ぶ。	2前	30	2		○		○			○	○
12	○			応接マナーⅡ	ビジネスで用いられる対人に対する応接マナーを演習形式で学ぶ。	2後	30	2		○		○			○	○
13	○			キャリアデザインⅠ	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定する ための方策を学ぶ。	1前	60	4	○			○		○		
14	○			ホームルーム	個別面談を定期的に実施し、学生個々の生活状況を把握するとともに、実習や就職指導も並行して行う。	12通	120	-				○		○		
15	○			イベント運営法Ⅰ	小学生と女子高校生を対象に年2回開催するｲﾍﾞﾝﾄを企画から運営までを行う。	1前	30	2			○	○		○		
16	○			イベント運営法Ⅱ	小学生と女子高校生を対象に年2回開催するｲﾍﾞﾝﾄを企画から運営までを行う。	1後	30	2			○	○		○		
17			○	パソコン実習	ワード・エクセル・パワーポイントの基礎的な使用方法を学ぶ。	1　後	30	2		○		○		○		
18			○	キャリアデザインⅠ	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定する ための方策を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
19			○	キャリアデザインⅡ	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定する ための方策を学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
20			○	ゼミ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	２後	30	2				○		○	○	
21			○	日本語表現Ⅰ	日本語の文章等を文字によって表記するための系統的な方法についてまなび、小論文等で自分の考えを表現できるようにする。	２前	30	2	○			○		○		
22			○	日本語表現Ⅱ	自ら意見をまとめるうえで必要となる情報を主体的に収集し、課題解決に取り組む姿勢を身に付ける。また、自身でテーマを取り上げ、そのテーマに対しての論文作成を実践する	２後	30	2	○			○		○		
23			○	公務員試験講座	公務員試験受験のための対策授業。	２後	30	2	○			○		○		
24			○	実践英語Ⅰ	英語の読み・書きを中心に基礎から応用まで学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
25			○	実践英語Ⅱ	英語の読み・書きを中心に基礎から応用まで学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
26			○	英会話Ⅰ	英会話の基礎から応用まで学び、実践できるようになる。	1前	30	2		○		○		○		
27			○	英会話Ⅱ	英会話の基礎から応用まで学び、実践できるようになる。	1後	30	2		○		○		○		
28			○	パソコン基礎Ⅰ	パソコンを用いて文書作成や表計算が行えるようになる。	1前	30	2		○		○		○		
29			○	パソコン基礎Ⅱ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	1後	30	2		○		○		○		
30			○	パソコン応用Ⅰ	パソコンを用いて文書作成や表計算が行えるようになる。	2前	30	2		○		○		○		
31			○	パソコン応用Ⅱ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	2前	30	2		○		○		○		
32			○	パソコン応用Ⅲ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	2後	30	2		○		○		○		
33			○	パソコン応用Ⅳ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	2後	30	2		○		○		○		
34			○	ビジネス電話講座Ⅰ	ビジネスで用いる電話応対について学ぶ	1前	30	2		○		○			○	
35			○	ビジネス電話講座Ⅱ	ビジネスで用いる電話応対について学ぶ	2前	30	2		○		○			○	
36			○	ビジネス文書講座Ⅰ	ビジネス文章の作成における注意点・マナーについて学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
37			○	ビジネス文書講座Ⅱ	ビジネス文章の作成における注意点・マナーについて学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
38			○	秘書講座Ⅰ	多岐に渡る秘書業務に関する知識を学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
39			○	秘書講座Ⅱ	多岐に渡る秘書業務に関する知識を学ぶ	12後	30	2	○			○			○	
40			○	ビジネス実務講座Ⅰ	ビジネスにおける実務マナーについて学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
41			○	ビジネス実務講座Ⅱ	ビジネスにおける実務マナーについて学ぶ	12後	30	2	○			○			○	
42		○		キャリアデザインⅡ	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定する ための方策を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
43			○	ビデオ編集法Ⅰ	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	1前	30	2		○		○		○		
44			○	ビデオ編集法Ⅱ	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	1後	30	2		○		○		○		
45			○	ビデオ編集法Ⅲ	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	2前	30	2		○		○		○		
46			○	ビデオ編集法Ⅳ	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	2後	30	2		○		○		○		
47			○	簿記初級Ⅰ	財産の増減・出納を一定のしかたで記録・計算・整理して、結果を明確にする記帳法を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
48			○	簿記初級Ⅱ	財産の増減・出納を一定のしかたで記録・計算・整理して、結果を明確にする記帳法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
49			○	簿記初級Ⅲ	財産の増減・出納を一定のしかたで記録・計算・整理して、結果を明確にする記帳法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
50			○	簿記中級Ⅰ	商業簿記・工業簿記を学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
51			○	簿記中級Ⅱ	商業簿記・工業簿記を学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
52			○	簿記中級Ⅲ	商業簿記・工業簿記を学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
53			○	ﾘﾃｰﾙﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞⅠ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
54			○	ﾘﾃｰﾙﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞⅡ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
55			○	ﾘﾃｰﾙﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞⅢ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12後	30	2	○			○			○	
56			○	ﾘﾃｰﾙﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞⅣ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12後	30	2	○			○			○	
57	○			解剖学Ⅰ	身体の基礎となる骨格、筋肉などの軟部組織の構造を理解し、運動指導者として必要な解剖学的基礎知識を学ぶ	１前	30	2	○			○		○		
58	○			解剖学Ⅱ	各筋肉の作用が各トレーニング種目とどのような関係性を持つのか、、筋肉の走行から関節動作を起こすメカニズムを理解し、どういったトレーニング種目がプログラムできるのかを学ぶ	１後	30	2	○			○		○		
59	○			解剖学Ⅲ	人体の構成について医学的に学ぶ。	1　後	30	2	○			○			○	
60	○			スポーツ医学Ⅰ	内科的スポーツ障害についての医学的基礎知識を学ぶ。様々な障害がなぜ起こるのか、その発生機序、そして対処方法を理論的に学ぶ	１前	30	2	○			○			○	○
61	○			スポーツ医学Ⅱ	スポーツ選手に多い傷害を中心に、発生機序から予防・リスク管理について理解を深めつつ、様々な場面での対応ができるような知識を着座しての講義だけでは無く、発生機序の理解を実習室等で、実際に体現しながら学習を進め、スポーツ現場で判断できる力を養う	１後	30	2	○		○	○			○	○
62	○			スポーツ生理学Ⅰ	ヒトは身体運動中にどのような生理的反応が起こるのか？運動と反射、運動と筋肉、運動とエネルギー代謝の関係を学ぶ	１前	30	2	○			○		○		
63	○			スポーツ生理学Ⅱ	運動が骨、関節、呼吸循環、体温調節、内分泌とどのような関連があるのか、どう影響するのかを学び、運動処方できる知識を学ぶ	１後	30	2	○			○		○		

64	○			スポーツ栄養学Ⅰ	５大栄養素についての理解を深め、食物の必要性と食習慣が身体に及ぼす影響を学ぶ	１後	30	2	○			○			○	
65	○			スポーツ心理学Ⅰ	運動技能の心理的特性、運動と効果、運動と知覚、運動意欲、運動場面と情動、運動指導の心理学などを学ぶ	１前	30	2	○			○			○	
66	○			スポーツ心理学Ⅱ	心理的コンディショニングがパフォーマンスに及ぼす影響を理解し、実際のスポーツ現場で生じる心理的現象に対応できる実践力を身につける	１後	30	2	○			○			○	
67	○			スポーツ指導論Ⅰ	指導者の役割を理解し、指導内容、指導活動、指導上の留意点を踏まえ、各専門種目の年間計画、日間メニューを作成する力を身に付ける。	１前	30	2	○			○		○		
68	○			トレーニング論	トレーニングの基本原理原則を理解し、筋活動の収縮様式、３大負荷条件をどうようにプログラムするのか？機能解剖学的な観点も踏まえ、クライアントの目的達成のためのトレーニング計画を作成する基礎を学ぶ	１前	30	2	○			○		○		
69	○			発育発達論	発育発達期の身体的、心理的特徴、ケガや病気、そして中高年者や女性特有の障害について学ぶ。またコーディネーショントレーニングが理論的に発育発達にどう影響するのかを学ぶ	１前	30	2	○			○			○	
70	○			ｱｽﾚﾃｨｯｸﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝⅠ	アスレティックリハビリテーションの基礎を学ぶ。	１　後	30	2	○			○		○		
71	○			救急処置法	外傷時の患部固定法・運搬法、心肺蘇生法など救急処置の基本的知識を学び、フローチャートをもとに実践できる力を身に付ける	１後	30	2	○			○		○		
72	○			スポーツ経営学	日本におけるスポーツの役割と行政の動きを理解し、スポーツ産業を取り巻く提供事業の経営のあり方とマネジメントを現場の状況から多角的に考察し理解する	２後	30	2	○			○			○	
73	○			スポーツ社会学	現代社会におけるスポーツの役割・指導者の役割を理解し、今後の日本のスポーツ産業が人のライフスタイルにどのような影響を及ぼすのかを学ぶ	２前	30	2	○			○			○	
74	○			体力測定評価法	筋力、柔軟性、関節動揺弛緩性、ｱﾗｲﾒﾝﾄ、身体組成の測定方法・評価方法の手順を理解する。また整形外科的、内科的メディカルチェックを基に統計分析しフィットバックできる力を身につける	２前	30	2			○	○			○	
75	○			バイオメカニクス	身体の動きを物理的に理解・評価し、効果的な動きを理解する。	２前	30	2	○			○		○		
76	○			スポーツ栄養学Ⅱ	トレーニング効果を高める食事とは何か？スポーツ活動における栄養の役割を理解し、各スポーツ種目のパフォーマンスアップに必要な栄養素、摂取方法、期分けについて学ぶ	２前	30	2	○			○			○	
77	○			ｱｽﾚﾃｨｯｸﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝⅡ	各傷害に対するリハビリテーションを学ぶ。	2　前	30	2	○			○		○		
78	○			ｱｽﾚﾃｨｯｸﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝⅢ	アスレティックリハビリテーションのプログラミングを行う。	2　前	30	2	○			○		○		
79	○			スポーツ医学Ⅰ	競技スポーツ選手の身体能力の強化、好成績を出すため身体の使い方、故障の予防、治療などを取り扱う、総合的な専門医学分野を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	○
80	○			スポーツメディカルⅠ	スポーツ医学を西洋的・東洋的にアプローチ方法が違う多角的な目線について学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
81	○			ゼミⅠ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	2前	30	2		○		○		○		
82	○			ゼミⅡ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	2後	30	2		○		○		○		
83	○			テーピングⅠ（足関節）	解剖学的観点から、傷害発生率が非常に高い足関節の内反捻挫のテーピング技術を学ぶ。機能性、巻く時間、見た目を重視する授業展開とする	１前	30	2			○	○		○		
84	○			コンディショニングⅠ	身体運動の効果を十分に上げるための諸要素を学ぶ。その中でも、柔軟性トレーニングが及ぼす身体活動の変化を筋の構造と機能を理解したうえで実践に結びつける	１前	30	2			○	○			○	○
85	○			トレーニング実習	ラダーやミニハードル、バランスボールなどのフィットネス器具を用い、理論を交え使用方法を学び、クライアントにデモンストレーションできる力を養う。また、個々にあったトレーニングプログラムを作成できる力を身につける。	１前	30	2			○	○		○		
86	○			トレーニング実技Ⅰ	筋肉の機能・関節の構造からトレーニング指導の基本を習得し、ウェイトトレーニングのフォーム・重さ・回数・セット数・テンポなどの変数の違いやシステムによる効果の違いを実践を通して学ぶ	１通	60	4			○	○			○	○
87	○			コンディショニングⅡ	競技スポーツにおいて勝つためのすべての準備を「コンディショニング」ととらえて、競技者、チームに対するコンディショニングとはどのようなことを学び、その方法を実際に体験する。	１後	30	2			○	○			○	○
88	○			体力測定評価実習	スピード・アジリティ・間欠的能力・有酸素能力といったフィールドテストを実践を通して学ぶ。また測定方法・評価方法を学び統計分析しフィードバックできる力を身につける	２後	30	2			○	○			○	
89	○			トレーニング実技Ⅱ	ラダーやミニハードル、バランスボールなどのフィットネス器具を用い、理論を交え使用方法を学び、クライアントにデモンストレーションできる力を養う。また、個々にあったトレーニングプログラムを作成できる力を身につける。	２通	60	4			○	○			○	○
90	○			スポーツ実技Ⅰ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨めているか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年通年	120	8			○	○		○		
91	○			スポーツ実技Ⅱ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨めているか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年通年	120	8			○	○		○		
92	○			スポーツ実技Ⅲ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨めているか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年通年	120	8			○	○		○		
93	○			スポーツ実技Ⅳ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨めているか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年通年	120	8			○	○		○		
94	○			スポーツ実技Ⅴ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨めているか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年通年	120	8			○	○		○		
95	○			ルール・レフリング	＊ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。 ＊日本公認ライセンスの取得を希望する学生への対策として、他連盟へ協力を依頼し各大会に学生を派遣して実践指導をする。 ＊国内主要大会に携わる立場として、学生に対してリアル・タイムで現在のバスケットボールに関わる情報を発信する。 ＊学生の要望や進路実現に向けコース長と連携を図り、柔軟性を持って授業を展開したい。	1年前期	30	2			○	○			○	
96	○			コンディショニングⅠ	ウォーミングアップやクーリングダウンの必要性や知識の学習、体力向上につながるフィットネステストの必要性、各種目におけるコンディショニング方法の違いを学び、視野の広いコンディショニングができるようにする	1年前期	30	2			○	○			○	
97	○			コンディショニングⅡ	ウォーミングアップやクーリングダウンの必要性や知識の学習、体力向上につながるフィットネステストの必要性、各種目におけるコンディショニング方法の違いを学び、視野の広いコンディショニングができるようにする	1年後期	30	2			○	○			○	
98	○			トレーニング実技Ⅰ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	1年前期	30	2			○	○			○	○
99	○			トレーニング実技Ⅱ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	1年後期	30	2			○	○			○	○
100	○			トレーニング実技Ⅲ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	2年前期	30	2			○	○			○	
101	○			トレーニング実技Ⅳ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	2年後期	30	2			○	○			○	
102	○			エアロビクス	リズム感を養いバスケットボールの技術向上に繋げる。 グループ発表を行うことを最終目標とする。	1年後期	30	2			○	○			○	

103	○			ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞⅠ	各関節におけるテーピング技術の習得。 正確さ・早さに重点を起き、実技テストの評価のみで課程を修業とする。 各テーピングでの実技テストで及第点を取らない場合、テーピングⅠコースを修業 と見做さない。	1年後期	30	2			○	○			○	
104	○			スポーツマッサージⅠ	運動器の機能、解剖のメカニズムを理解しスポーツマッサージの技能を実技によりマスターする。	2年前期	30	2			○	○			○	
105	○			スポーツマッサージⅡ	生徒同士で、施術者と患者を想定し、マッサージを行います。その中で、各部位にある筋肉を実際に触って覚え、筋肉ごとに適した刺激量・刺激方法の獲得を目指す。	2年後期	30	2			○	○			○	
106	○			スポーツ実技Ⅰ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○		○		
107	○			スポーツ実技Ⅱ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○		○		
108	○			スポーツ実技Ⅲ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○		○		
109	○			スポーツ実技Ⅳ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○		○		
110	○			スポーツ実技Ⅴ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2前	60	4			○	○		○		
111	○			スポーツ実技Ⅵ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2前	60	4			○	○		○		
112	○			スポーツ実技Ⅶ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2後	60	4			○	○		○		
113	○			スポーツ実技Ⅷ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2後	60	4			○	○		○		
114	○			コンディショニングⅠ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	1前	30	2			○	○		○		
115	○			コンディショニングⅡ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	1後	30	2			○	○		○		
116	○			コンディショニングⅢ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	2前	30	2			○	○		○		
117	○			コンディショニングⅣ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	2後	30	2			○	○		○		
118	○			トレーニングⅠ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。 体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	1前	30	2			○	○		○		
119	○			トレーニングⅡ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。 体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	1後	30	2			○	○		○		
120	○			トレーニングⅢ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。 体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	2前	30	2			○	○		○		
121	○			トレーニングⅣ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。 体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	2後	30	2			○	○		○		
122			○	ＡＴ理論試験講座Ⅰ	アスレティックトレーナー客観式試験の合格を目指し授業を行う。	1　後	30	2	○			○		○		
123			○	ＡＴ理論試験講座Ⅱ	アスレティックトレーナー客観式試験の合格を目指し授業を行う。	2　前	60	4	○			○		○		
124			○	ＡＴ理論試験講座Ⅲ	アスレティックトレーナー客観式試験の合格を目指し授業を行う。	2　後	90	6	○			○		○		
125			○	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ概論	アスレティックトレーナーの役割について学ぶ。	1　前	30	2	○			○		○		
126			○	ＡＴ演習	アスレティックトレーナー業界について学ぶ。	1　前	30	2		○		○		○		
127			○	コンディショニングⅢ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	2　後	30	2	○			○		○		
128			○	スポーツ指導者基礎理論Ⅰ	日本トレーニング指導者協会のトレーニング指導者試験に向けて、基礎理論を学ぶ	１前	30	2	○			○			○	
129			○	スポーツ指導者基礎理論Ⅱ	日本トレーニング指導者協会のトレーニング指導者試験に向けて応用理論を学ぶ	１後	30	2	○			○			○	
130			○	スポーツ指導論Ⅱ	スポーツ指導者としての基礎的な知識と実践を学ぶ。	1　後	30	2	○			○		○		
131			○	トレーニング科学	動作改善指導に必要な着眼点と考え方を学び、現場での応用力を身に付ける。スポーツ障害発生の予防、技術・成績の向上に不可欠な様々なトレーニング効果を生む指導法を学ぶ	２通	60	4			○	○			○	○
132			○	スポーツ医学Ⅲ	スポーツ活動時に発生する整形外科的傷害について理解を深める。	2　前	30	2	○			○			○	
133			○	スポーツ医学Ⅳ	スポーツ医学の内科関連分野における幅広い知識を身につける。	2　前	30	2	○			○			○	
134			○	スポーツ医学Ⅴ	スポーツ活動時に発生する整形外科的傷害について理解を深める。	2　後	30	2	○			○			○	
135			○	トレーナー特論	競技種目を体力特性、動作特性、競技特性など多方面から理解し、アスレティックトレーニングの指導時に実践できる知識を学ぶ。	1　前	30	2	○			○			○	
136			○	スポーツ栄養学Ⅲ	スポーツの現場で、実際に選手が必要な栄養をとるために何をどれくらい食べればよいかを指導できる知識と技術を身につける	2　後	30	2	○			○			○	
137			○	身体評価学	全身から各部位へ視診・触診でアライメント評価して傷害を予測し、さらに的確にストレステストを行って傷害を確定できる能力を身につける。	1　前	30	2			○	○		○		
138			○	トレーニング指導者論	トレーニング指導者認定試験模擬問題集を参考に試験対策をおこなう。	2　後	30	2	○			○		○		
139			○	生涯健康論	中年期における生活習慣病予防、高齢期における介護予防（老年症候群予防）などに関連するトピックスをとりあげ、支援に必要な基礎知識と実践方法について学習する	２前	30	2	○			○		○		
140			○	運動処方論	生活習慣病，メタボリックシンドローム，ロコモティブシンドローム，認知機能向上に対する適切な運動療法について理解する	２後	30	2	○			○		○		
141			○	健康運動実践指導者試験講座	健康運動実践指導者筆記試験に向けて、テスト形式で出題と解説を繰り返しレベルアップを図る	２後	30	2	○			○		○		
142			○	ボディメイク理論	食べる力を高めることで心と体の両面からの健康を追究し、クライアントの目的に応じた食育指導の実践能力を高める	２後	30	2	○			○			○	
143			○	ＣＰＴ試験講座	ＮＳＣＡ-ＣＰＴ試験に向けて、パーソナルトレーナーの基礎知識全般を各単元に分け、問題形式で試験への対策を目的とする	１前	60	4	○			○		○		
144			○	プログラミング	クライアント個々の現状を把握して、どのようなトレーニングが適切か、どれくらいのボリュームで行うべきかを分析し、実際にﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾒﾆｭｰを作成する力を身に付ける	２後	30	2				○		○		
145			○	パーソナルﾄﾚｰﾅｰ概論	個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成するため、動作分析・生理学的分析・傷害分析の理解を深め、解剖学的・運動生理学的観点から個々に必要なトレーニング種目や負荷条件の設定方法を学ぶ。	１後	30	2				○		○		
146			○	運動動作療育	ノルディックウォーキングやニュースポーツなどの高齢者スポーツを、運動の特性や効果を理解した上で実践活動し体感する。	１後	30	2	○			○		○		
147			○	介護予防運動概論Ⅰ	介護予防のシステムや成り立ち、仕組みを理解し、運動が介護予防にどうつながるのかを学ぶ。また、運動面だけでなく様々な要因からサポートする必要性があることを理解する。	１後	30	2	○			○			○	
148			○	介護予防運動概論Ⅱ	高齢者特有の疾患、運動特性を理解し、個々に適した運動プログラムを作成できる力を身に付ける	２前	30	2	○			○			○	
149			○	障がい者スポーツ概論	障害の種類や程度を理解し、それぞれに適したスポーツやレクリエーションを提供できる仕組みや社会環境にについて学ぶ	２後	30	2	○			○		○		
150			○	エアロビクス理論	現場での様々な参加者に応じた、安全で効果的な有酸素運動のプログラム作成と指導が出来るように、エアロビクスの理論を通して身体の運動メカニズムを学ぶ	２通	60	4	○			○			○	
151			○	水泳特論	公認水泳指導員資格取得のための水泳基礎学を学ぶ。水泳の歴史や、安全対策、４泳法の指導法を理論的に学ぶ	２後	30	2		○		○			○	
152			○	ﾌｨｯﾄﾈｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論	フィットネス業界の現状を知り、今後の業界発展のために、どのようなマネジメントが必要なのか？をディスカッション方式で学び、就職後の企画運営力を高める	２前	30	2		○		○			○	○
153			○	解剖学Ⅰ	身体の基礎となる骨格、筋肉などの軟部組織の構造を理解し、運動指導者として必要な解剖学的基礎知識を学ぶ	1前	30	2	○			○		○		
154			○	解剖学Ⅱ	各筋肉の作用が各トレーニング種目とどのような関係性を持つのか、、筋肉の走行から関節動作を起こすメカニズムを理解し、どういったトレーニング種目がプログラムできるのかを学ぶ	１後	30	2	○			○		○		
155			○	スポーツ医学Ⅰ	競技スポーツ選手の身体能力の強化、好成績を出すため身体の使い方、故障の予防、治療などを取り扱う、総合的な専門医学分野を学ぶ。	１前	30	2	○			○			○	○
156			○	スポーツ医学Ⅱ	競技スポーツ選手の身体能力の強化、好成績を出すため身体の使い方、故障の予防、治療などを取り扱う、総合的な専門医学分野を学ぶ。	１後	30	2	○			○			○	
157			○	スポーツ生理学Ⅰ	運動中の身体の生理的な反応について学ぶ。	１前	30	2	○			○		○		
158			○	スポーツ生理学Ⅱ	運動中の身体の生理的な反応について学ぶ。	１後	30	2	○			○		○		
159			○	スポーツ栄養学Ⅰ	スポーツに求められる栄養素の摂取と反応について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
160			○	スポーツ栄養学Ⅱ	スポーツに求められる栄養素の摂取と反応について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
161			○	スポーツ心理学Ⅰ	スポーツに関する精神的領域を対象とする学問。運動とストレスの関係など諸問題を研究する。	1前	30	2	○			○			○	

162			○	スポーツ心理学Ⅱ	スポーツに関する精神的領域を対象とする学問。運動とストレスの関係など諸問題を研究する。	1後	30	2	○			○			○	
163			○	スポーツ指導論Ⅰ	スポーツ指導についての正しい知識と効果的な指導法についの理解を深める	2前	30	2	○			○		○		
164			○	スポーツ指導論Ⅱ	スポーツ指導についての正しい知識と効果的な指導法についの理解を深める	2後	30	2	○			○		○		
165			○	スポーツ経営学	科学的な経営手法を用いて、スポーツがもたらす様々な便益を人々が享受し、豊かなスポーツ生活を実現するための組織的活動の原理原則を学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
166			○	スポーツ社会学	科学的な経営手法を用いて、スポーツがもたらす様々な便益を人々が享受し、豊かなスポーツ生活を実現するための組織的活動の原理原則を学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
167			○	トレーニング論	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。 体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
168			○	発育発達論Ⅰ	誕生から乳児期、幼児期、学童期、思春期を経て、からだが完成する時期に関するからだの加齢変化を主に形態から理解する。	1前	30	2	○			○			○	
169			○	発育発達論Ⅱ	誕生から乳児期、幼児期、学童期、思春期を経て、からだが完成する時期に関するからだの加齢変化を主に形態から理解する。		30	2	○			○			○	
170			○	生涯学習論・運動処方論	健康増進，体力の維持増強や治療の目的をもって身体運動の強度，持続時間，頻度などを示すことができるようになる。	1前	30	2	○			○			○	
171			○	バイオメカニクス	生物の構造や運動を力学的に探求したり、その結果を応用したりすることを学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
172			○	スポーツ概論Ⅰ	未開講		30	2								
173			○	スポーツ概論Ⅱ	未開講		30	2								
174			○	スポーツ概論Ⅲ（特講）	未開講		30	2								
175			○	スポーツ概論Ⅳ（特講）	未開講		30	2								
176			○	戦術論Ⅰ	サッカーの試合で戦いに勝利する為の方策について学ぶ	1全	60	4	○			○			○	
177			○	戦術論Ⅱ	サッカーの試合で戦いに勝利する為の方策について学ぶ	2全	60	4	○			○			○	
178			○	CPT概論	CPT合格を目指し、教科書に沿った内容でテストに出題されるところを おさえていく。基本的には、毎回予習課題を出し、教科書を見る癖をつけるように する。ビデオ問題に向け、実技も実施することで動きを確認し、対策を行う。 テストの対策だけでなく、現場でも実践できるような技術も勉強する。	1年後期	30	2	○			○			○	
179			○	CPT演習	＊ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。 ＊日本公認ライセンスの取得を希望する学生への対策として、他連盟へ協力を依頼し各大会 に学生を派遣して実践指導をする。 ＊国内主要大会に携わる立場として、学生に対してリアル・タイムで現在のバスケットボー ルに関わる情報を発信する。 ＊学生の要望や進路実現に向けコース長と連携を図り、柔軟性を持って授業を展開したい。	2年前期	30	2	○			○			○	
180			○	保育士演習	未開講	1年後期	60	4								
181			○	介護初任者研修演習	未開講	1年後期	30	2								
182			○	幼児体育Ⅰ・Ⅱ	幼児の身体的特徴、成長曲線を理解した上での体育活動について学ぶ	1後	60	4	○			○			○	
183			○	幼児体育Ⅲ・Ⅳ	未開講		60	4								
184			○	スポーツメディカルⅡ	未開講		30	2								
185			○	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	社会復帰のレベルからさらに競技復帰レベルまでを考えて行っていくリハビリテーションを学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
186			○	ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ	スポーツ選手が負傷を予防、もしくは負傷した部位の悪化を防止するために、関節、筋肉などにテープを巻いて固定する方法を学ぶ	1後	30	2	○			○		○		
187			○	ﾛｼﾞｶﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	「明快でわかりやすく」かつ「論理的で正確な」コミュニケーションのこと。 このスキルの身につけ方を学ぶ	1前	30	2	○			○		○		
188			○	ｸﾗﾌﾞﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄⅠ	ｸﾗﾌﾞﾁｰﾑを運営する上で必要な知識等を学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
189			○	ｸﾗﾌﾞﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄⅡ	ｸﾗﾌﾞﾁｰﾑを運営する上で必要な知識等を学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
190			○	ｽﾎﾟｰﾂﾒﾃﾞｨｽﾝⅠ	ｽﾎﾟｰﾂを取り巻く医療分野の中で西洋医学のみでは無く、東洋医学も含めた医療内容を学ぶ	1前	30	2	○			○		○		
191			○	ｽﾎﾟｰﾂﾒﾃﾞｨｽﾝⅡ	ｽﾎﾟｰﾂを取り巻く医療分野の中で西洋医学のみでは無く、東洋医学も含めた医療内容を学ぶ	1後	30	2	○			○		○		
192			○	ﾄﾚｰﾅｰ特論Ⅰ・Ⅱ	ﾄﾚｰﾅｰに関する知識・技能を幅広く学ぶ	12全	60	2	○			○			○	
193			○	ﾄﾚｰﾅｰ特論Ⅲ・Ⅳ	ﾄﾚｰﾅｰに関する知識・技能を幅広く、深く学ぶ	12全	60	2	○			○			○	
194			○	テーピングⅡ	スポーツ現場で使えるテーピングの応用を学ぶ。	1　後	30	2			○	○		○		
195			○	ＣＦＳＣ	ファンクショナルトレーニングの哲学・理論・実技を習得する。	1　後	30	2			○	○			○	○
196			○	物理療法概論	コンディショニング、アスレティックリハビリテーションで使われる物理療法などを実際に体験する。	1　後	30	2			○	○		○		
197			○	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝⅣ	アスレティックリハビリテーションのプログラミング内容を指導する。	2　後	30	2		○		○		○		
198			○	触診Ⅰ	骨・筋等の解剖学の知識を中心に整理し、骨指標、筋の形状や走行、硬さ等を確認し習得を目指す。	1　後	30	2			○	○			○	
199			○	触診Ⅱ	骨指標および体表から確認できる筋群の触診の実技を中心に進める。	2　前	30	2			○	○			○	
200			○	フィットネスエクササイズ	健康体力増進のためのエアロビックダンスエクササイズを正しい姿勢、正しい動きで実践できる力を養う。そして、効果的で安全なプログラム作成の基礎知識を学ぶ	1前	30	2			○	○			○	
201			○	水泳	競泳４泳法において、完成までの一連のプログラムを実践することで水泳理論を学ぶ。また水中運動に関わる様々なプログラムを体験する	1通	60	4			○	○		○		
202			○	ｽﾄﾚﾝｸﾞｽ＆ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞ実習	柔軟性トレーニング・スタビリティトレーニング・プライオメトリクストレーニングの理論を理解し、実践を通して運動プログラムの手法を学ぶ	1後	30	2			○	○		○		
203			○	ピラティス実践	ピラティスエクササイズの理論を理解し、まず自分自身が見本を見せれる動きを習得する。その後、個々のクライアントに対してのプログラミングを学び、指導・コミュニケーションスキルを高める	２通	60	4			○	○			○	
204			○	グループ指導実践	指導現場における多様化されたグループ指導プログラムに対応するための授業。グループエクササイズ指導に必要なホスピタリティ、リーダーシップを理解し、健常成人・発育、発達期・高齢者など対象レベルに応じたプログラムの作成、実践を行う	２後	30	2			○	○			○	
205			○	パーソナルトレーナー実技	未開講		30	2								
206			○	傷害評価法	身体の各関節におけるＲＯＭ、ＭＭＴ、SpecialTesｔの基本的手法、流れを学び傷害評価に必要な手技を学ぶ	２前	30	2			○	○			○	
207			○	ファンクショナルトレーニング実践	移行的動作評価(オーバーヘッドスクワット・シングルレッグスクワットｅｔｃ)の目的、動作手順、評価方法・評価基準を理解し、クライアントの動作の問題点を正しく抽出しできる手法を学ぶ	２前	30	2			○	○		○		
208			○	スポーツマッサージ	マッサージのの目的、効果を理解し、軽擦法・強擦法・揉捏法・叩打法などの様々な手技と手順を実践を通して習得する	２前	30	2			○	○		○		
209			○	福祉レクリエーション	高齢者施設の対象者に対して、ゲームや歌、集団遊びを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できる力を養う	２前	30	2			○	○		○		
210			○	メディカルトレーナー実践	高齢者施設への介護予防運動現場実習に向けて、運動プログラムの企画、運営、参加者募集方法などを考案し、実践指導に向けての準備を行う。また実習先へ企画のプレゼンテーションを行う	２前	30	2			○	○		○		
211			○	介護予防運動実践	介護予防運動の基本計画をもとに、運動プログラムの実践活動を行う。その活動の中で修正を加え、オリジナルプログラムを作成する	２後	30	2	○			○			○	
212			○	レッドコード演習	レッドコードの目的、効果を理解し、機能的な神経筋トレーニング、スポーツパフォーマンスの向上、リハビリテーションといった目的に対して、効果的な運動プログラムを作成できる力を身に付ける	２後	30	2		○		○		○		
213			○	水泳指導法	水泳指導員に必要な競泳４泳法の指導テクニックを学ぶ。各泳法でよく見られる問題点に対しての改善方法、指導ポイントを実践を通して学ぶ	２通	60	4	○			○			○	
214			○	ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ(生涯ｽﾎﾟｰﾂ)	子どもに対してゲームや歌、集団遊びやスポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できる力を養う	１後	30	2	○			○			○	
215			○	幼児体育実践Ⅰ	未開講		30	2								
216			○	幼児体育実践	キッドビクスプログラムの中の根幹であるアクティビティ・プレイ＆フィットネスエクササイズについて、自身でプログラムを体感し、子どもたちへのフィットネスエクササイズプログラム作成の基礎を学ぶ	２通	60	4	○			○			○	
217			○	エアロビクス理論	リズム感を養いバスケットボールの技術向上に繋げる。 グループ発表を行うことを最終目標とする。	２通	60	4	○			○			○	

218			○	スポーツ指導法(バレー)	未開講		30	2									
219			○	こどもと体育	遊びフィットネスの運動プログラムを作成し、からだと道具を使ったコラボレーションプログラムをプレゼンテーションできる力を身に付ける	２前	30	2		○		○			○	○
220			○	スタジオエクササイズ実践	健康・体力づくりを目的とした様々なエクササイズを体験し、それぞれの運動の特徴や内容を理解するとともに、指導者として必要な体力の向上を目指す	１通	60	4		○		○			○	
221			○	アクアウォーキングエクササイズ	水の特性と水中運動の効果を実技を通じて理解を深める。水中でのウォーキングエクササイズ・レジスタンスエクササイズの指導テクニックを身に付ける	１後	30	2		○		○			○	
222			○	ｱｸｱﾋﾞｸｽｴｸｻｻｲｽﾞ	アクアダンスの基本動作と強度変換方法を理解し、実践を通してコンディショニングプログラムの作成・指導テクニックを学ぶ	２前	30	2		○		○			○	
223			○	エアロビクス実技	常に指導現場の現状・新しい情報を取り入れ、幅広い年齢層の目的に応じたエアロビクス指導技術を身につける	２通	60	4			○	○			○	
224			○	スポーツ実技Ⅵ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	２通	120	8			○	○		○		
225			○	スポーツ実技Ⅶ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	２通	120	8			○	○		○		
226			○	スポーツ実技Ⅷ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	２通	120	8			○	○		○		
227			○	スポーツ実技Ⅸ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	２通	120	8			○	○		○		
228			○	スポーツ実技Ⅹ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	２通	120	8			○	○		○		
229			○	指導法Ⅰ	ｽﾎﾟｰﾂの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○		○		
230			○	指導法Ⅱ	ｽﾎﾟｰﾂの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○		○		
231			○	指導法Ⅲ	ｽﾎﾟｰﾂの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○		○		
232			○	指導法Ⅳ	ｽﾎﾟｰﾂの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○		○		
233			○	指導法実践Ⅰ	ｽﾎﾟｰﾂ指導技術を実際の指導現場同様に実践し学ぶ	2前	60	4			○	○			○	
234			○	指導法実践Ⅱ	ｽﾎﾟｰﾂ指導技術を実際の指導現場同様に実践し学ぶ	2後	60	4			○	○			○	
235			○	審判法Ⅱ	競技スポーツの審判方法について学ぶ。	1全	120	8			○	○			○	
236			○	審判法Ⅲ	競技スポーツの審判方法について学ぶ。	2全	60	4			○	○			○	
237			○	チーム戦術Ⅰ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○		○		
238			○	チーム戦術Ⅱ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○		○		
239			○	チーム戦術Ⅲ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	2前	60	4			○	○		○		
240			○	チーム戦術Ⅳ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	2後	60	4			○	○		○		
241	○			現場実習Ⅰ	学校指定のパーソナルジム・介護予防運動施設・フィットネスジム等の健康増進施設にて１２０時間の現場実習	１通	60	4			○	○				
242	○			現場実習Ⅱ	学生個々で実習希望先を決め、個々の指導技術レベル、実習経験をもとに１５日間の指導実習を行う	２通	60	4			○	○				
243	○			社会体育実習	１年次はキャンプ・スキー・ビラティス研修から選択、２年次はキャンプ・スノーボード・ヨガ研修から選択し、各指導者資格取得を目指す	１２通	120	8			○	○				
244	○			基礎実習	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	30	2			○		○	○		
245	○			専門実習	校外のスポーツ施設においてかつ、興味ある分野に特化して学ぶ	2全	30	2			○		○	○		
246			○	現場実習Ⅲ	各種目の様々な指導現場で実践的な指導法を身をもって体験する。	2　前	60	4			○		○	○	○	
247			○	現場実習Ⅳ	各種目の様々な指導現場で実践的な指導法を身をもって体験する。	2　後	60	4			○		○	○	○	
248			○	ルール・レフリング実習Ⅰ	競技スポーツの審判方法について学ぶ。	1前	30	2			○	○		○		
249			○	ルールﾚﾌﾘﾝｸﾞ実習Ⅱ	＊ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。	2年後期	30	2			○		○		○	
250			○	運営実習Ⅰ	プロスポーツの現場に行き、運営実習を行う。 自分で考え行動する力をつける。	1年	30	2			○		○		○	
251			○	運営実習Ⅱ	プロスポーツの現場に行き、運営実習を行う。 自分で考え行動する力をつける。	2年後期	30	2			○		○		○	
252			○	現場実習Ⅰ	インターン活動で、会社に自分をアピールするのと同時に様々なスキルを獲得する。	1年後期	30	2			○		○		○	
253			○	現場実習Ⅱ	インターン活動で、会社に自分をアピールするのと同時に様々なスキルを獲得する。	2年後期	30	2			○		○		○	
254			○	指導者実習Ⅰ	校外の指導現場にて指導を行い学ぶ	2全	30	2			○		○		○	
255			○	指導者実習Ⅱ	校外の指導現場にて指導を行い学ぶ	2全	30	2			○		○		○	
256			○	海外研修	海外の環境・文化・生活を実際に足を運び学び取る	2全	30	2			○		○	○		
257			○	基礎実習Ⅱ	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	60	4			○		○	○		
258			○	基礎実習Ⅲ	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	30	2			○		○	○		
259			○	基礎実習Ⅳ	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	60	4			○		○	○		
260			○	専門実習Ⅱ	校外のスポーツ施設においてかつ、興味ある分野に特化して学ぶ	2全	60	4			○		○	○		
261			○	専門実習Ⅲ	校外のスポーツ施設においてかつ、興味ある分野に特化して学ぶ	2全	30	2			○		○	○		
262			○	海外研修Ⅰ	海外の環境・文化・生活を実際に足を運び学び取る	12全	30	2			○		○	○		
263			○	海外研修Ⅱ	海外の環境・文化・生活を実際に足を運び学び取る	12全	30	2			○		○	○		
合計					263科目	1860単位時間(124 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 卒業要件については規定の出席率を満たし、指定された単位数を修得し、卒業試験に合格したものを卒業判定会議で審査し、校長が認定したものとする。	１学年の学期区分	前・後 期
履修方法： 学生は、学則に定める教育課程の所定の科目を履修し、所定の単位を修得しなければ、進級もしくは卒業できない。	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）
１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。